

○名取市地域公共交通計画 進捗状況一覧

資料1-1

1. 発現する効果の評価指標

- (1)地域公共交通の利用者数増加
- (2)なとりん号の収支改善
- (3)市北西部の移動を支える広域幹線の維持
- (4)来訪者数の増加

達成状況凡例： ◎:目標値達成 ○:現状値以上 △:現状値以下

効果	指標名	単位	現状値(R3)	参考値(R4)	達成状況	R5	R6	R7	R8	R9	目標値(R9)	実施状況(令和5年度末の状況)	課題及び今後の取組等(令和6年8月時点)
(1)	なとりん号の利用者数 (デマンド交通利用者数も含む)	万人/年	40.5	41.7	◎	50.3 (うちデマンド0.8)					46.0	令和5年10月より幹線路線の運賃を50円引き下げを実施し、利用者数の向上を図った。また、免許返納者に関して、1年間の無料乗車の施策を展開し、利用者増加へつなげた。 なとりん号の利用者数は、前年比約23%増、デマンド交通は、対応する廃止済みの生活路線との前年比では約9%増。特に愛島線・愛の杜線の利用者が増加した。 また、なとりん号及びなとりんくろの状況等について、交通事業者と月1回定例の打合せを実施し、課題の共有等を実施している。	愛島線について、通勤通学時の利用者が増加したことから遅延が生じているため、運行データを集積し、ダイヤ等の組み直しを図る予定。 また、市民からダイヤや路線について要望が出た場合、より良いバス運行ができるよう情報を積み上げて、分析できるように努める。
(2)	なとりん号の収支率 (デマンド交通利用者数も含む)	%	32.4	32.9	△	32.0					35.0	令和5年10月から需要に合わせたバスダイヤの見直しにより利用者の利便性向上を図った。 路線再編のため令和5年10月まで委託を延長したことから費用が割高となり、収支率が令和4年度と比べ下降したが、下半期(10月～3月)は上昇傾向にある。 また、AIデマンドの収支率については上半期の収支率と比較すると約4.17ポイントの上昇となった。 上半期(4月～9月)30.23% 幹線路線:41.9% 生活路線:5.74% 下半期(10月～3月)33.58% うち幹線路線:39.14% うちデマンド交通:9.91%	路線再編後の下半期の収支率は昨年度と比べると上昇しており、経過を確認しながら、適宜なとりん号及びなとりんくろの状況を交通事業者と共有して、必要に応じて改善策を検討する。
(3)	宮城交通の市内運行路線の市内の利用者数	万人/年	27.2	32.4		34.8					経営の健全化	【宮城交通】 利用者はコロナ5類移行以後、回復基調ではあるが、未だコロナ前の水準の8割に満たない。 令和5年4月・10月にダイヤ改正を実施。利用実態に合わせた改正により利便性向上を図った。また、同じく10月にバス停「岩口南」「熊野堂舞台下」を新設した。 令和5年度は市内運行路線担当営業所にノンステップ車両新車4両を配置。他にも全車ICカードシステム搭載、ビッグデータ分析によるダイヤ改善、バスロケーションシステム(どこバス仙台)運用、MaaS参画(デジタルチケット)、新紙幣・新硬貨対応、環境定期券制度、各種交通安全運動への取組み、各種先進安全技術の導入、健康経営、ESG経営等に取り組んでいる。 【名取市】 令和5年度より、ゆりが丘地区では人口減少に歯止めをかけるため住民を交えたまちづくり会議を実施。課題等を整理する中で、バスの重要性が挙げられた。尚綱学院大学の学生となとりん号再編に伴う問題を議題としたワークショップを開催し、なとりん号にかかわらずバス利用を考えるきっかけづくりとしたモビリティ・マネジメントに取り組んだ。	【宮城交通】 いわゆる2024年問題もあり、運転士不足が深刻。需要のある時間帯であってもダイヤ編成を見直さざるを得ない状況に陥っている。 令和6年度は市内運行路線担当営業所にノンステップ車両新車3両配置(予定)。 【名取市】 区画整理事業として高館熊野堂地区を整備予定。 ゆりが丘地区のまちづくり会議を継続し、WS等で公共交通も含めたまちづくりを住民が主体となって検討していく。 高館小学校の児童を対象としたバスの乗り方教室を実施予定。
(3)	宮城交通の市内運行路線の本市外も含めた路線全体の利用者数	万人/年	99.1	112.2		120							
(3)	宮城交通の市内運行路線の全体収支率	%	67.3	74.8		78.3						【宮城交通】 尚綱学院大線(西中田経由)の一部運行を子会社(株式会社ミヤコーバス)へ委託し、経費の削減を図っている。 市内の利用者数は令和3年度比で127.9%であるが、燃料・物価高騰のあおりを受け費用が増加、全体収支率では11ポイントの上昇に留まり、赤字が深刻である。 【名取市】 コロナ禍における燃油価格高騰に対し、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、現行路線を維持するため支援金の交付を実施した。	【宮城交通】 市内運行路線は、宮城交通路線バス全線の中でも特に赤字額が多く、事業者の自助努力だけでは維持が困難になっている。収支改善のため、令和6年4月・10月(予定)の改正により、市内運行便減便(平日▲9便・土休日▲11便)。10月(予定)改正において「ゆりが丘四丁目」始発の西中田系統、「ゆりが丘五丁目南」終点の同系統を廃止。 【名取市】 今後も国からの交付金等の動向を注視しながら、宮城交通との情報共有、連携を図っていく。
(4)	観光入込客数	万人/年	127.9	145.6	◎	153					136.0	アフターコロナを迎え、各地・各施設イベント等も増加しており、全体的に増加傾向となったことで目標値以上の着地となった。	今後も観光物産協会や各観光施設と連携し、観光誘客に取り組んでいく。
(4)	なとりん号 閑上線利用者数	人/日	115	122	◎	198					122	令和5年10月の路線見直しでは、閑上線を仙台空港に延伸し、仙台空港を利用した観光客を閑上の観光地に訪問しやすいよう利便性の向上を図った。	今後、観光マップである「閑上マップ」に閑上線のダイヤ及びルートを掲載し、利用促進を図る。

2. 施策毎の評価指標

方針	施策	事業No	指標名	単位	現状値(R3)	参考値(R4)	達成状況	R5	R6	R7	R8	R9	目標値(R9)	実施状況(令和5年度末の状況)	課題及び今後の予定等(令和6年8月時点)
1	多様な交通モードの連携・協力による利用しやすい交通ネットワークの構築に関する事業	1	なとりん号の再編												
			1-1	公共交通による人口カバー率	%	87.4	87.4	◎	100				100	・令和5年10月より、路線の再編及びAIデマンド交通「なとりんくる」を実証運行開始。市内全域を対象とすることで、カバー率100%を達成した。	令和6年4月より乗合バス「なとりん号」のリニューアル及びデマンド交通「なとりんくる」の本格運行を開始した。路線については、要望等から一部路線を追加して運行した。人口カバー率100%を継続して保つために、幹線路線及びデマンド交通の運行状況を分析するとともに、市民から指定乗降場所の変更や新設について要望等があれば、検討しながら持続可能な体制を整えていく。
			1-1	なとりん号の収支率 (デマンド交通利用者数も含む) 【発現する効果の評価指標より再掲】	%	32.4	32.9	△	32.0				46.0	令和5年10月から需要に合わせたバスダイヤの見直しにより利用者の利便性向上を図った。 路線再編の令和5年10月まで委託を延長したことから費用が割高になり、令和5年度全体の収支率は令和4年度と比べ0.9ポイント下降したが、下半期(10月～3月)のみの収支率は33.58%となり、上昇傾向にある。また、AIデマンドの収支率については、9.91%となり、令和3年度における生活路線の収支率と比較すると約2.5ポイントの上昇となった。	路線再編後の下半期の収支率は昨年度と比べると上昇しており、経過を確認しながら、適宜なとりん号及びなとりんくるの状況を交通事業者と共有して、必要に応じて改善策を検討する。
			1-1 (1-2) (5-1)	なとりん号利用者数 (デマンド交通利用者数も含む) 【発現する効果の評価指標より再掲】	万人/年	40.5	41.7	◎	50.3 (うちデマンド0.8)				35.0	令和5年10月より幹線路線の運賃を50円引き下げを実施し、利用者数の向上を図った。また、免許返納者に関して、1年間の無料乗車の施策を展開し、利用者増加へつなげた。 なとりん号の利用者数は、前年比約23%増、デマンド交通は、対応する廃止済みの生活路線との前年比では約9%増。特に愛島線・愛の杜線の利用者が増加した。 また、なとりん号及びなとりんくるの状況等について、交通事業者と月1回定例の打合せを実施し、課題の共有等を実施している。	愛島線について、通勤通学時の利用者が増加したことから遅延が生じているため、運行データを集積し、ダイヤ等の組み直しを図る予定。 また、市民からダイヤや路線について要望が出た場合、より良いバス運行ができるよう情報を積み上げて、分析できるように努める。
	2	交通結節機能の強化	2-1	交通結節点での乗降客数 (名取駅前・名取駅西口)※平日	人/日	964	未集計	○	1016				1,100	令和5年10月時のなとりん号改編時から、鉄道に合わせたバスダイヤ設定をしている。 (令和5年10月1日～令和6年3月31日の半年間の利用者数÷182.5日)	引き続き、鉄道会社と連携し、鉄道のダイヤが変わる際には事前の共有を図り、バスダイヤを設定していく。 今後は、名取駅改札口付近にサイネージを設置し、バスの時刻表を掲載することで、乗り継ぎを行いやすい環境を整備する。
			2-2	バス停の整備件数	件	0	0	△	0				1	計画策定当初は愛島台のバス停が1か所のみであることから、モビリティポートを整備した交通結節機能を持つバス停の整備を想定していたが、なとりん号の見直しによりバス停を7箇所に増設することで利便性を図った。なとりん号の委託事業者にも確認しているが、モビリティポート等の要望は現状届いていない。	交通結節機能を持つバス停の整備箇所について、現在は要望等はないが、必要性や住民の意向を確認しながら、必要に応じて検討する。
			2-3	対象駐車場の利用件数	台/年	41	42	○	57				70	名取市HPIによる情報案内を継続中。増加傾向にある。	名取市HP案内情報の更新 都市計画課窓口でのチラシ設置
	MaaSの導入	3-1	事業者意見交換会の実施回数	回	0	0	◎	2					2	デマンド交通システム、バスロケーションシステム、キャッシュレス決済システム、ODデータ計測システムの実装に向け、交通事業者及びシステム事業者と課題の共有・協議を実施した。	デマンド交通の予約システムやバスロケーションシステム等と連携した市民サービス拡充に向けた関係者間の継続的な協議を要しており、交通関係事業者と通信事業者等との意見交換会を継続的に実施し、MaaSの実装に向けた検討を実施していく。
	4	観光と地域公共交通の連携	4-1	観光と連携したツアーの企画件数	件	0	0	△	0				4	令和2年度から実施している「名取・仙台沿岸部周遊キャンペーン」事業を継続実施するとともに、仙台市で実証運行した「せんだい海手線ループバス」との連携可能性について検討を行った。	「名取・仙台沿岸部周遊キャンペーン」事業内で、「せんだい海手線ループバス」と連携した事業を実施した。
			4-1 (4-2)	名取市内の観光入込客数 【発現する効果の評価指標より再掲】	万人/年	127.9	145.6	◎	153				136.0	アフターコロナを迎え、各地・各施設のイベント等も増加しており、全体的に増加傾向となったことで目標値以上の着地となった。	今後も観光物産協会や各観光施設と連携し、観光誘客に取り組んでいく。
			4-2	アクセス手段となる公共交通利用者数(閑上線利用者数) 【発現する効果の評価指標より再掲】	人/日	115	122	◎	198				122	令和5年10月の路線見直しでは、閑上線を仙台空港に延伸し、仙台空港を利用した観光客を閑上の観光地に訪問しやすいよう利便性の向上を図った。	今後、観光マップである「閑上マップ」に閑上線のダイヤ及びルートを掲載し、利用促進を図る。

方針	施策	事業NO	指標名	単位	現状値(R3)	参考値(R4)	達成状況	R5	R6	R7	R8	R9	目標値(R9)	実施状況(令和5年度末の状況)	課題及び今後の予定等(令和6年8月時点)
2 多様な交通モードの連携・協力による利用しやすい交通ネットワークの構築に関する事業	5 地域公共交通の維持・確保	5-1	宮城交通対象路線の名取市内の乗降客数 【発現する効果の評価指標より再掲】	万人/年	27.2	32.4		34.8						経営の健全化 【宮城交通】 利用者数はコロナ5類移行以後、回復基調ではあるが、未だコロナ前の水準の8割に満たない。 令和5年4月・10月にダイヤ改正を実施。利用実態に合わせた改正により利便性向上を図った。また、同じく10月にバス停「岩口南」「熊野堂舞台下」を新設した。令和5年度は市内運行路線担当営業所にノンステップ車両新車4両を配置。他にも全車ICカードシステム搭載、ビッグデータ分析によるダイヤ改善、バスロケーションシステム(どこバス仙台)運用、MaaS参画(デジタルチケット)、新紙幣・新硬貨対応、環境定期券制度、各種交通安全運動への取組み、各種先進安全技術の導入、健康経営、ESG経営等に取り組んでいる。 【名取市】 令和5年度より、ゆりが丘地区では人口減少に歯止めをかけるため住民を交えたまちづくり会議を実施。課題等を整理する中で、バスの重要性が挙げられた。尚絢学院大学の学生となとりん号再編に伴う問題を議題としたワークショップを開催し、なとりん号にかかわらずバス利用を考えるきっかけづくりとしたモビリティ・マネジメントに取り組んだ。	【宮城交通】 いわゆる2024年問題もあり、運転士不足が深刻。需要のある時間帯であってもダイヤ編成を見直さざるを得ない状況に陥っている。 令和6年度は市内運行路線担当営業所にノンステップ車両新車3両配置(予定)。 【名取市】 区画整理事業として高館熊野堂地区を整備予定。 ゆりが丘地区のまちづくり会議を継続し、WS等で公共交通も含めたまちづくりを住民が主体となって検討していく。 高館小学校の児童を対象としたバスの乗り方教室を実施予定。
		5-2	移動需要を喚起する取組件数	件/年	0	0	○	1					2	令和6年2月に「かわまちてらす 関上」で開催された「かわまち夜市復活祭」に合わせ、なとりん号「関上線」の臨時便を運行した。	9月中旬から10月末の土日祝にブルーーツリズム推進支援事業として、サイクルスポーツセンターを活用したナイトBBQ等を開催予定。移動にはなとりん号の利用を周知し、移動需要を喚起する取組みとなっている。
		5-3	本協議会等を通じた意見交換回数	件/年	0	0	◎	2					2	・岩沼市と運行実績やデマンド交通の取組等を互いに共有し、デマンド型の交通の必要性を確認するなど、今後の意見交換につなげた。 ・仙台市名取市広域行政協議会では沿岸部のシェアサイクル事業等、周遊や集客に関する交通移動等について、意見交換を行った。	5月に開催された、仙台市名取市広域行政協議会において、沿岸部の回遊手段の整備に関し、各自治体の取組等の情報共有を行い、連携を図った。引き続き機会を捉えて実施していく。
	6 員輸送への資源備えの総動	6-1	取組団体との意見交換回数	件/年	0	0	△	0					2	地元スーパーマーケットが山手団地や関上地区等で運行しているお買い物バスについて、令和5年度より、買い物困難者に対する支援として継続運行のための補助を交付。毎月平均約500人(累計)の方が乗車しており、買い物困難者の移動の確保に繋がっている。	地元スーパーマーケットに対しては令和6年度についても、継続補助を交付予定。引き続き利用状況等を確認していく。 NPO法人えにしの会については、今後意見交換を実施し、課題の把握に努める。
		6-1	他都市事例の調査・研究件数	件	0	0	△	0					5	買い物の支援を行っているNPO法人えにしの会については継続して倉庫置場の土地を無償提供している。また、市民活動団体として一覧にした冊子を作成し、広報を行っている。	また、関係部署・機関と連携しながら、機会を捉えて他自治体からの聞き取り等により調査する。
	7 の貨客混載	7-1	検討に向けた意見交換回数	回	0	0	○	1					5	乗合バス(幹線路線)については、朝・晩の通勤通学時間帯は乗車人数が多く、荷物を置くスペースがない状態且つ、運行ダイヤに余裕が無く、貨客混載は難しい状況であった。 デマンド交通についても運行時間に余裕が無く、また荷物を積み込むことができるスペースが少ないことから、貨客混載までの検討には至らなかった。	日中時間帯は車内スペースに余裕があることから、なとりん号・なとりんくるの委託事業者と毎月定例会を実施していく中で、随時運行状況や受入体制を確認しながら、貨客混載の需要等を検討していく。
3 未来につながる地域公共交通の利用促進	8 モビリティ・マネジメントの実施	8-1	学校モビリティ・マネジメント実施回数	件/年	0	0	○	2					3	市内の高校、高専、大学の生徒に対し、「なとりん号再編に伴う問題」を議題としてバスの良い点、問題点を出し合い、解決策を共有するワークショップを開催。	下増田小学校では、仙台空港の見学時に仙台空港アクセス線を利用し、乗り方を学ぶ授業を実施。 その他、小学生を対象にバスの乗り方教室を実施予定。
		8-2	住民モビリティ・マネジメント実施回数	件/年	0	0	◎	2					2	令和5年11月になとりん号・なとりんくるの利用者、非利用者(約400人)に対しアンケート調査を実施し、利用満足度や課題の把握を行った。 また、バス利用者増加に向け、スマホ教室を各地区で合計44回開催し、デマンド交通の予約や、バスロケーションシステムの使い方等をレクチャー・周知を実施した。	令和6年10月に公民館にて出前講座を実施予定。なとりん号・なとりんくるの概要や利用方法等について説明を行う。今後申請があれば、他町内会等でも実施をしたい。
		8-3	エコ通勤認証事業者数	件	0	0	○	1					5	市民や市内事業所への公共交通利用促進の働きかけに先立ち、令和5年9月から令和6年1月までの5カ月間、市職員による公共交通チャレンジデーを実施。 月2日程度として、①毎月第4金曜日及び、②市役所庁舎、近隣公共施設等でのイベント開催により混雑が予想される日をチャレンジデーに設定し、公共交通利用促進を図った。 上記の取組により、エコ通勤に関する取組を積極的に推進している事業所として、8月に名取市が県内自治体として初めて、「エコ通勤優良事業所」として認証・登録を受けた。	公共交通チャレンジデーのアンケート調査では、実際に公共交通で通勤してみても逆に時間が掛かった、運賃が嵩む等の要因から目的の浸透が難しい状況であった。課題を分析して、改善しながら引き続き市役所内の公共交通利用促進を目指し、市民や市内事業所への公共交通利用促進の取組の参考としていく。
	た 9 公 環 交 境 通 に の 配 取 慮 組 し	9-1	他都市事例の調査・研究件数	件	0	0	△	0					5	高齢者・障がい者・妊産婦の方でも自由に移動できるよう、令和5年10月より、バス路線「なとりん号」は全15台をノンステップバスとしたほか、AIデマンド交通「なとりんくる」についても、1台を車いす対応車両としている。また、自動運転については、実装に至るまでのハードルが高いことから、現時点での活用は難しいと考えているが、将来的に自動運転の技術を公共交通等に生かしていくことを目的に、調査研究を進める。	令和6年8月に静岡県からのAIデマンド交通に関する視察を受け入れた際に静岡県静岡市では「燃料電池バス」を導入した事例があると聴取。今後、先進的な取組を調査し、引き続き機会を捉えて他自治体からの聞き取り等により調査する。